

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CT,PET,PET/CT術前全身検索は(Stage I,II Subtype)有用か？
P	Stage I・II乳癌で術前の女性
I	CT, PET, PET/CT検査を行う
C	行わない
臨床的文脈	Stage I・II乳癌の術前にCT,PET,PET-CTによる全身検索を行っても、転移の見つかる頻度は低いと考えられている。実際には検査が行われるケースもあることから、益のアウトカムと害のアウトカムを含めて、検査を推奨するべきかどうかの検討を行った。

O1	遠隔転移検出
非直接性のまとめ	コホート研究7件のうち1件は術前と術後が分けられていないため、研究対象集団が異なるが、他の研究においては術前に限定した解析が行われていることから、影響は少ないと判断。また、Stage I・IIだけでなく、StageIIIを含む研究が多かったが、いずれの研究もStage毎に分けた結果が示されており、問題なし。いずれの研究も局所の病期診断にPET/CTを追加した場合の遠隔転移検出率を示しており、介入や比較に問題は認めなかった。
バイアスリスクのまとめ	一部の研究において連続した症例の登録でないものや、連続症例か否かの記載のないものがあり、患者選択にバイアスが生じた可能性がある。
非一貫性その他のまとめ	研究結果に非一貫性、不精確性は認めない。
コメント	局所の病期診断に加えてPET/CTを行うことで遠隔転移の検出率は上昇する。今回検討した研究においてはStage Iで検出率0-13%、Stage II Aは5-20%、Stage II Bは14-49%と高い検出率を認めた。一方、一部の研究においては患者選択にバイアスが否定できないものもあった。サブタイプや年齢別の検討は少なく、今後の検討課題である。

O2	ステージ変更
非直接性のまとめ	コホート研究6件のうち1件は術前と術後が分けられていないため、研究対象集団が異なるが、他の研究においては術前に限定した解析が行われていることから、影響は少ないと判断。また、Stage I・IIだけでなく、StageIIIを含む研究が多かったが、いずれの研究もStage毎に分けた結果が示されており、問題なし。
バイアスリスクのまとめ	一部の研究において連続した症例の登録でないものや、連続症例か否かの記載のないものがあり、患者選択にバイアスが生じた可能性がある。
非一貫性その他のまとめ	研究結果に非一貫性、不精確性は認めない。
コメント	局所の病期診断に加えてPET/CTを行うことで、初期Staging時には診断されていないリンパ節転移や遠隔転移が検出され、ステージがup stageとなる症例が存在することが示された。今回検討した研究においてup stage率はStage Iにおいて0-50%、Stage II Aで9.5-29%、Stage II Bでは11-48%であった。また、down stageとなった症例が12.7%とする報告もあり、PET/CTによって病期がより正確に判断される可能性も示された。一方で、一部の研究においては患者選択にバイアスが否定できないものもあった。サブタイプや年齢別の検討は少なく、今後の検討課題である。

O3	死亡率減少
非直接性のまとめ	NA
バイアスリスクのまとめ	NA
非一貫性その他のまとめ	NA
コメント	検査を行うことで死亡率が減少するというアウトカムに該当する研究は認めなかった。

O4	合併症・副作用
非直接性のまとめ	NA
バイアスリスクのまとめ	NA
非一貫性その他のまとめ	NA
コメント	検査に使用する薬剤や放射線被曝について記載した研究は認めなかった。